シリーズ ㉑

我が家の家庭教育

宝米 小川 光子

我が家は、ごく普通のありふれた兼業農家を営む家庭です。

私達は、勤めに出ていますので、祖父母が少しばかりの田畑を耕作し、子供達（小一と四才半の男の子）の世話はほとんど祖母まかせでした。時間におわれる生活の中で子供達を欲求不満に陥らせ、その代償として、子供の望むままに要求を通してやり、甘やかし過保護に育ててしまいました。いけないこととはわかっていましたが、それが毎日の生活の繰り返しだったのです。

長男が小学校に入学して、初めて家庭教育の重要性を知り、あわてました。これまで親の意のままに育ててきたからです。「三つ子の魂百までも」のことわざどおり、今となっては遅いかもしれませんが、まず、家族で話し合いました。

一日の生活をふりかえり、改めなければならないことをピックアップし、少しでも良い方向へ導いていけるよう、次のことを決めました。

まず、家族中が一貫性を持って子供に接すること。その一つとして、

一、その場かぎりの感情でほめたり、しかったりしないこと。

二、わがままを通させないこと。

三、お金の価値を教えること。

四、早寝、早起きをすること。

五、家族そろって食事をすること。

六、つとめて子供と遊ぶこと。（スキンシップ）

この六点を我が家では心がけて実行している所です。

まだ半年ぐらいのものですが、親の態度が子供にこんなにも影響していたものかと驚かされました。

それと、我が子を成長させるには、まず、自分も成長しなければならないことに気づきました。

幸いにして、家庭教育に関して、勉強する機会を与えられましたので、子供と共に、家族皆んなで協力していきたいと思っています。

〝人間はどう生きるべきか〟大盛況の講演会

十一月十四日、町と商工会が共催し、作家の藤原ていさんをお招きしての講演会が開かれました。

この日集った約三〇〇人を前に「これから期待される人間像」について約二時間、ご自分の体験を通して、人間はどう生きるべきか、又、親は子をどう育てて行くべきか、について熱のこもった講演をされました。

講演する藤原てい先生

「私は、幸せを求めて六十七年生きてきた」と語るお姿は力強く、お年を感じさせないバイタリティーに満ちあふれていました。

お話の中で『親は子に座折を教えなければいけない、そして、あらゆる障害を自分の力で乗越えて行く勇気・努力・精神力を養い、何物にも負けない力強い一人の人間に育てていかなければならない』と力説されていました。

今の家庭教育の中で求められている一番大切な事ではないでしょうか。

おじゃします

中央保育園

十一月十五日、消防署による避難訓練が行われている所におじゃましました。

先生も園児達もみんな真剣な表情で訓練をしていました。又、訓練が終ってから、消防自動車の前に集まり、装備について説明を受けていました。